

倶知安駅のバリアフリー化は

町長 ホームまで平面により移動可能な構造に。利便性は向上

小川

JR 倶知安駅のバリアフリー

化の具体的方法としてエレベーター設置や線路連結切り替え、1番線埋め立てなどによる実現があると考えるが、JRに対して英知を結集し積極的に要請を図ることが重要であるが見解を伺う。

町長

駅を利用する高齢の方、足の不自由な方にとって跨線橋（こせんきょう）は大変不便であり、冬季節においてはスキー・スノーボード・キャリーケースなど大きな荷物をかかえた観光客にとっても利

便性のよい駅とは言えない状況となっている。

利便性向上について従前よりJR北海道に対して要望してきた。

先般の新幹線駅利便性等に向けた検討協議会で、新幹線駅部工事は現在の在来線ホーム直上において行われる予定となり、在来線ホームは総合体育館側に移設されることで鉄道・運輸機構から説明を受けた。

これにより駅舎からホームまでは平面により移動可能な構造となり、利便性は向上するものと考えている。

乗り継ぎを含めてスムーズにいくような体制にしなければならぬ。引き続き要望していきたい。

新幹線トンネル工事 要対策土の最終受け入れは

小川

トンネル工事の掘削土につ

いて、現在、峠下地区にある仮置き場にヒ素・鉛を含む要対策土を一時保管している。今後は二ツ森トンネル（鹿子）からはセレンを含む要対策土

が、羊蹄トンネルからはヒ素・鉛を含む要対策土が掘削されようとしている。

これら要対策土の最終受け入れの場所や、運搬時期、管理方法などについて伺う。



小川 不朽 議員



倶知安駅構内

町長

峠下の仮置き場に一時保管しているこれら重金属を含む要対策土の最終受け入れ地の確保に向け、近隣の土地利用状況・維持管理・経済性等について検討を進め、大和にある町有地を受け入れ地とするために必要な測量・地質調査等について、5月29日から行っている事業主体の鉄道・運輸機構から報告を受けている。

町としても、重金属が外部に漏れ近隣環境に影響を及ぼすことがないよう、徹底した対策を講じるよう強く求めるとともに対策方法が示されたら速やかに報告したい。

倶知安保育所の跡地利用は

小川

今年度解体される倶知安保育所の跡地利用について

計画は。

町長

倶知安保育所は昭和45年に建設された施設であり、

本年4月のくつちゃん保育所ぬくぬくの開所まで部分改修を繰り返しながら使用してきたが、大規模な耐震補強改修などが行われていないため、本年7月から取り壊しに着手する。

平成28年3月議会において、倶知安保育所の跡地は「公園や道路、狭隘する中学校の駐車場など、地域の生活環境整備に重点を置いた利活用を考えている」と答弁したが、現時点でも利用方法については変更なく、地域の生活環境整備に活用していきたいと考えている。道路をつけることは地域からの要望があがってきている中での判断である。整備に向けて十分検討し早期に対応したい。

一般質問 小川 不朽